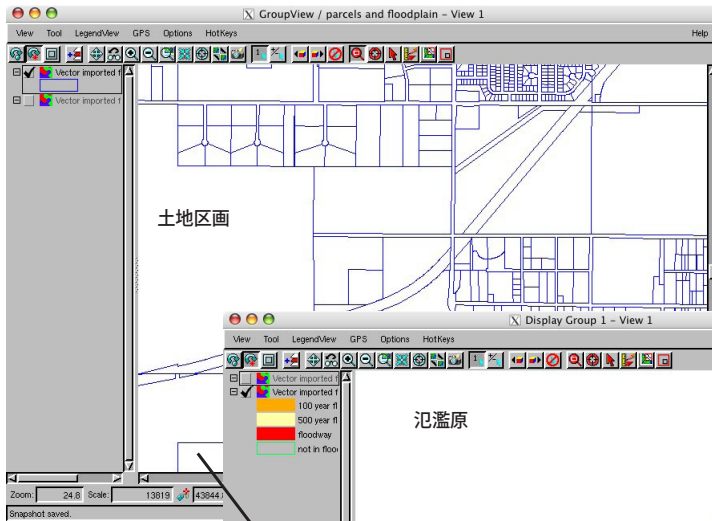


# ベクタのクイックスナップショット

ベクタや他の図形オブジェクトだけを表示していて、クイックスナップショットを実行し、PNG フォーマットで保存する場合、表示キャンバスの背景は PNG ファイルでは透明になります。ベクタの要素が半透明に設定されていると、Google Earth に重ねると半透明に表示されます。不透明の要素と半透明の要素の両方が混在している場合でも、これらのスタイルは PNG ファイルに保持され、そのまま Google Earth で使用されます。Google Earth には透明度スライダがあり、レイヤ単位で変更されます。従って、複数レイヤを一度にまとめてキャプチャするかわりに、各レイヤを透明設定無しで別々にキャプチャすると、Google Earth において各レイヤの透明度を 0 から 100% の範囲でフルコントロールすることができます。

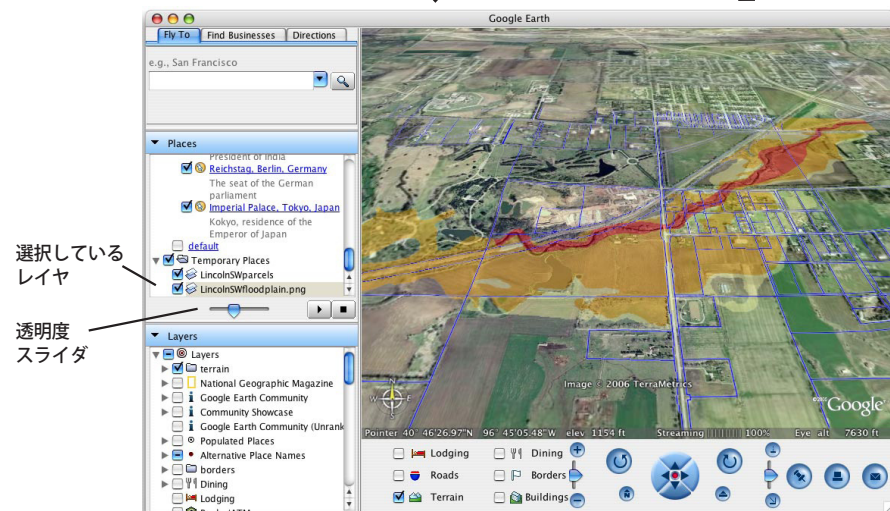


透明設定無しで表示された2つのベクタレイヤの同じエリアが別々のスナップショットとしてキャプチャされています。

Google Earth の " 保留 (Temporary Place) " リストにおいて自分のレイヤを識別しやすくするため、スナップショットの名前として、単純なデフォルトの接頭辞ではなく、もっと説明的な名前を付けたいことがあるかもしれません。[表示 (View)] メニューの [スナップショットの別名保存 (Save Snapshot As)] を使ってスナップショットを保存すれば、スナップショットに自由に名前を付けられます。この方法を使わずにスナップショットをキャプチャし、後で違う名前にしようとする、関連するファイル全部の名前を変え、\*.kml ファイルをテキストエディタで編集して KML ファイルの中のスナップショットファイルの名前を新しい名前に変更する必要があります (ファイル名は KML ファイル中に 2 度出てきます)。



クイックスナップショットで作成されたフォルダとファイル。注意: これらのスナップショットは名前がはっきり区別できるように [スナップショットの別名保存] を使用して作られました。



選択しているレイヤ

透明度スライダ

TNTview で表示したネブラスカ州リンカーンの土地区画面境界の一部と氾濫原のポリゴンの一部。クイックスナップショットをそれぞれについて実行しました (上図)。Google Earth において、氾濫原レイヤを選択し、透明度スライダを使って調節しました。この時、土地区画面の透明度には何ら影響はありません。適切な解像度を保持しながらもっと広範囲のベクタを表示したければ、スナップショットを連続して撮ることも可能です。スクロールバーをクリックすることによって、10%ずつ重なった連続した画像を得ることができます。あるいは [表示 (Display)]/[レンダリング (Render To)]/[ラスタ (Raster)] を使えば、各種図形レイヤ全域を、関連するジオファイルや KML ファイルを伴った PNG ファイルにレンダリングできます (「空間表示: KML へのレンダリング (Spatial Display: Render to KML)」をご覧ください)。ただし、Google Earth では " 保留 " で使える各 PNG ラスタのセルサイズは縦横 2048 ピクセルに制限されていますので、比較的単純な図形オブジェクトに限られます。